

あとがき

平成十六年二月、佐原昭子さんに誘われて自分史グループ『おもしろい川』へ入会しました。水樹涼子先生はこの『おもしろい川』の編集をしてくださったのでした。

平成十九年十二月に妻がNHKカルチャーセンターのピラで水樹先生の創作講座の記事を見つけて教えてくれました。すぐにその場で入会を申し込んだ翌日、

「小説・エッセイ集『在吾』創刊号発行のお祝いを兼ねて忘年会をしますから参加してください」と先生からお誘いいただきました。

それから八年三か月もNHKカルチャーセンター創作講座で楽しみながら書いてきました。

私はずっと前から小説を書きたいと思っていました。これは切望というか、渴望というべき思いでした。講座に入会して何か月かは自分の経験を少し創作風に、という程度にしか書けませんでした。「男の人は自分が女になって、女の人は男になって書いてみなさい」とご指導を受けました。

女になったつもりで書いた最初の作品が『雨の女』、二作目が『虹を見に行った』でした。

いと思いい立ちました。

二水会の皆様に校正のお願いをしてから先生に、ご報告のつもりで「第一校正用のゲラ版刷り」をお送りしましたところ、丁寧に見直してくださいました。お忙しい中を私のためにこれほどお手間をかけてくださったことを思うと涙が出ます。

『おもしろい川』の先輩方が個人集を作ると「香典返しが出来た」と言っていたのを思い出します。

今最後の仕上げをしながら、思いがけず結構な香典返しになりそうで、ホクホク喜んでいます。

今生の思い出になります。ありがとうございます。本当にありがとうございます。

水樹先生

二水会の皆様

NHK創作講座の皆様

『雨の女』を提出してから、イタリアのフィレンツェへ旅行しました。

帰ってきてすぐの講座で『雨の女』のご講評を受けましたが、驚くようなお褒めをいただき、弾みが付いた感じでした。

イタリア旅行の旅費を出してくれた息子と、JTBに掛け合せて企画してくれた息子の妻（私は娘と言っています）に旅行記を書いて送らなければならないのに『虹を見に行った』の方を先に書いてしまいました。それほど弾みがついたのでした。

*

平成二十七年八月までは毎週日曜礼拝に浦和の教会へ通っていたのに、体力に限界を感じて行けなくなりました。日曜礼拝にも行けなくなったのに講座にだけ行くのは気が咎めまずので、平成二十八年三月に卒業させて頂きました。

一年経って、寂しくてたまらなくなつたので、小山中央公民館のエッセイサークル「二水会」へ参加させていただきました。このごろ、体力の衰えを覚え膝も痛むようになりまして、勉強会の日には佐藤会長に送り迎えしていただいています。

先のことを考えて、書いたものをひとまずまとめおきた